

桜 生 工

2015 日本大学生産工学部校友会誌

CONTENTS

ごあいさつ

生産工学部校友会会長 高野和雄	2
生産工学部学部長 落合 実	3
平成27年度 生産工学部校友会 代議員総会	4
平成27年度 生産工学部校友会 代議員総会 懇親会	5
桜泉祭・母校を訪ねる会	6
第10回 日進会(教職員合同)ゴルフコンペ	6
工科系校友会 連絡会	7
2016年度 キャンパスガイド表紙デザインコンペ	7
第8回 風力発電コンペ	8
全日本理工科学生柔道 優勝大会	8

OB 紹介

千葉工業大学 工学部教育センター 准教授 南澤 磨優寛	9
東京情報大学 総合情報学部長 三宅 修平	10
広島県立広島工業高等学校 土木科 主任 本屋敷 繁寿	11
学科ニュース	12
箱根駅伝	16

高野和雄 生産工学部校友会会長



日本大学生産工学部
校友会 会長
高野 和雄

校友の皆様におかれましては、益々ご清栄でご健勝の趣、心よりお慶び申し上げます。

早いもので、皆様のお陰で会長を7年させていただいております。

昨年9月に開催された日本大学理事会において理事に任命されると共に日本大学校友会スポーツ振興特別委員会委員長を拝命し、日々精励致しておりますことを校友の皆様方にご報告申し上げます。

また、日頃多大なご協力を賜わり深く感謝申し上げます。

4年後の2019年に我が日本大学は創立130周年を迎えます。130周年記念事業として昨年の日本大学藤沢小学校の創設に続き、来年4月には危機管理学部とスポーツ科学部の2学部が三軒茶屋の新キャンパスに開設され

ます。生産工学部校友会相談役の石井進日本大学常務理事が創立130周年記念事業募金の責任者でもありますので、校友の皆様方に募金のご協力をご依頼申し上げたくよろしくお願い申し上げます。スポーツ振興では、箱根駅伝の応援、アメリカンフットボール（甲子園ボール）の応援、相撲部の応援、野球の応援などなど皆様方のご寄付をいただき学生に寄与してきました。

7月9日（木）生産工学部野球場を本拠地としている日本大学野球部の東都大学春季2部リーグ戦優勝、1部昇格祝賀会及び激励会を39号館2階、学生食堂におきまして生産工学部校友会の主催で行われました。1部秋季リーグ戦では、日本大学野球部が準優勝をすることができ、1部リーグ優勝祝賀会は間近と思います。

来年1月2日・3日に行われる箱根駅伝ですが、今年の箱根駅伝で13位に終わった本学は10月17日に東京都立川市の国営昭和記念公園内外の20キロコースで行われた予選会で参加49校中1位となり出場権を獲得しましたので、ことし同様応援をよろしくお願い申し上げます。

また、ゴルフでは第1回日本大学オープンを嵐山カントリークラブで、OBのプロ48名が参加し素晴らしい大会ができました。

生産工学部柔道部も、全日本理工科学生柔道優勝大会で優勝の栄冠を獲得したことも大きなニュースの一つでした。

今後とも校友会活動を通して母校の発展に寄与したく尽力致す所存でございますので倍旧のご指導、ご支援の程心よりお願い申し上げます。



日本大学野球部 東都2部リーグ優勝祝賀会及び激励会

落合 実 生産工学部学部長



日本大学生産工学部学部長
生産工学部校友会名誉会長

落合 実

校友の皆様におかれましてはますますご健勝でご活躍のことと、心よりお慶び申し上げます。

生産工学部は、ご存じのように昭和27年(1952)、工学部(現理工学部)工業経営学科を前身とし、昭和41年(1966)に生産工学部に改組されて現在に至っています。創設以来、経営管理能力を備えた技術者の育成を教育目標とし、産業界に最も近い工学系の学部、また日本で唯一「生産」の冠を持つ学部であり、「生産実習」は現在も必修科目としています。本年は創設から63年目を迎え、9学科25コース、大学院7専攻を有する学部を発展し、学部学生約6,400名、大学院前期課程約260名、博士後期課24名が勉学に励んでおり、卒業・修了生は約7万人に達しています。

このような生産工学部の発展は校友(卒業生)の活躍が社会で高く評価されていることによるものです。そして校友会からの多大で直接的なご支

援とご協力が生産工学部の発展に繋がっています。お礼申し上げます。

そこで校友会からのご支援の一部を紹介いたします。まず「校友会奨学金」(経済的に困窮した学生への奨学金)です。これは校友会から数十年前に莫大な奨学基金を賜り、その利息を奨学金としています。加えて、2012年の創設60周年記念事業では多額のご寄附を頂戴しましたので、この寄付金を10年間に亘って、毎年給付させていただいております。次に学部行事として、風力発電コンペ、キャンパスガイド表紙コンテスト、留学生研修旅行、桜泉祭、母校を訪ねる会などへの補助、入学生や優秀卒業生への記念品贈呈、鳥人間コンテストや優勝運動部をはじめとした学生の部活動などへの活動費補助、そして学生の就職および生産実習生の受入れ支援、等々、ご支援とご協力をいただいております。

このような学生へのご支援とご協力に対して、ご理解を賜っております高野和雄会長ならびに石井進相談役をはじめとした校友会役員そして校友の皆様に対しまして、心より御礼申し上げます。

学部の近況を報告いたします。昨年4月1日に学部長に就任して2年目、「魅力あふれる大学づくり」を目指し、「生産工学部らしさの創造と実践」のために7つの柱を立て、教職員が一丸となって教育・研究活動の活性化に取り組んでいます。特に「受験生および女子入学生の増加」そして「グローバル化への対応」を具体目標としています。その一施策として、本年4月から「グローバル人材育成プログラム(GloBE; グロービー)」を開始しました。グローバル時代に対応したい学生のために世界でたくましく活躍できる力を身に付けるプログラムであり、ビジネス・エンジニアリング教育と英語コミュニケーション演習から成り立っています。そして本年6月には国際交流推進の一つとして米国のミシシッピ州立大学(Mississippi State University)と交流協定を結びました。生産工学部の海外協定校は5校(米国2校、台湾1校、韓国2校)となりました。またグローバル化を含め多様化する社会に対応できる人材が求められていますので、学生に対する教育の質の保証と向上のために教育改革に取り組んでおり、本学部独自の特徴あるカリキュラムとプログラムを構築しています。

生産工学部では創設以来、特徴ある教育・研究を通して経営が分かる技術者を育成しており、企業後継者が多く卒業し、そのお子様も入学・卒業しています。伝統と特徴を生かした「生産工学部らしさの創造と実践」を推進して「生産工学部」を社会に発信して行きます。

更なる生産工学部の発展のために校友会、卒業生の皆様のご理解とご支援、ご協力を賜りたく、心よりお願い申し上げます。



(<http://www.msstate.edu/newsroom/article/2015/06/msu-japanese-university-sign-memorandum-understanding/>)

平成27年度 生産工学部校友会代議員総会 懇親会



懇親会では高野和雄生産工学部校友会会長より田中英壽本部校友会会長・日本大学理事長に日本大学創立130年記念事業基金寄付金800万円を贈呈させていただき、田中英壽理事長より石井進日本大学創立130周年記念事業基金委員長に目録を手渡されました。これにより生産工学部校友会からの寄付金は本部校友会日本大学創立130年記念事業1,000万円と生産工学部奨学金基金1億2,000万円とを合わせて合計金額1億3,000万円になりました。



大塚吉兵衛日本大学学長と落合実生産工学部学部長に生産工学部留学生ユウ・シンネさん（台湾）、シュエ・チーチンさん（台湾）、チョウ・マンリンさん（台湾）、サーラガム・サリンヤさん（タイ）、カーラパット・ピッツニーさん（タイ）、セータン・アリーラットさん（タイ）が、いろいろとご指導をいただきました。生産工学部校友会は留学生をご招待させていただき楽しんでいただきました。

桜泉祭・母校を訪ねる会

平成27年の桜泉祭は10月30日（土）～11月1日（日）行われました。11月1日には37号館2階で、第27回「母校を訪ねる会」が開催されました。今年は昭和40年・昭和50年・昭和60年・平成7年・平成17年卒業の方々に招待状が送付されています。招待状が10年毎に送られるのは郵送費を圧縮するための手段に過ぎませんので、それ以外の年の卒業生の参加も歓迎されます、ぜひご参加ください。今回の参加者は、招待年の卒業生92名それ以外の年の卒業生49名教職員OB22名教職員88名計270名でした。

式次第を紹介いたします。

- 1 開会の言葉 河原和人電気電子部会部会長
- 2 学部長挨拶 落合実学部長
- 3 会長挨拶 高野和雄校友会会長
- 4 相談役挨拶 石井進相談役
- 5 学部執行部紹介 6 校友会役員紹介
- 7 乾杯 逆井彰事務局長
- 8 開宴 9 招待者参加数報告
- 10 中締め 上田浩司マネジメント部会部会長
- 11 閉会の辞 室木正春土木部会部会長

閉会の後は各部会等で集まり、更に親睦を深めていました。



桜泉祭



母校を訪ねる会

第10回日進会（教職員・校友会合同）ゴルフコンペ

平成27年10月3日（土）大栄カントリークラブに於いて、生産工学部教職員と校友会幹事等で合同ゴルフコンペを18組で開催致しました。競技方法は18ホール新ペリア方式・上限なし（同ネットは年長者上位）で行われました。個人戦優勝は白川龍美さん（経済校友会）

準優勝は山下至さん（生産校友会）、3位は長谷英明さん（生産校友会）でした。天候にも恵まれ今年も教職員と校友会が仲良くゴルフを満喫し和やかに表彰式と祝宴が催されました。

次回、幹事は建築部会です。



工科系校友会連絡会

第33回日本大学工科系校友会連絡会が平成27年8月29日（土）、日本大学工学部62号館3階AV室で開催されました。4学部校友会幹事約40名が参加。座長に工学部中野伍朗さんが選出され話題としては①工科系校友会連絡会の在り方について②本部校友会正会員の拡充について等話し合いました。懇親会にご来賓として、石井進日本大学常務理事、藤原雅美工学部次長、落合実生産工学部長、本橋重康薬学部長、山本寛

理工学部長、三ツ井直紀工学部事務局長、逆井彰生産工学部事務局長、鳥飼廣志薬学部事務局長、加藤和英理工学部事務局長に出席していただきました。当番校である手塚公敏工学部校友会会長の開会の辞ではじまり会は和やかな祝宴になり工学部応援団の演武をお披露目していただきました。最後に次回当番校である高野和雄生産工学部校友会会長の閉会の辞でお開きとなりました。



2016年度キャンパスガイド表紙デザインコンペ

平成27年11月1日（日）津田沼校舎39号館1階ギャラリーで2016年度キャンパスガイド表紙デザインコンペ作品審査を行いました。

最優秀賞に CIT未来の（絵空事）を具現化させる実現力（テーマ） 島崎 翔さん（建築）

優秀賞に 彩りのキャンパス（テーマ） 福田奎也さん（建築）

優秀賞に 未来を創る（テーマ） 山下シロさん（建築）

が選ばれました。生産校友会はキャンパスガイド表紙デザインコンペを応援します。



最優秀賞
CIT未来の（絵空事）具現化させる実現力
島崎 翔



第8回風力発電コンペ

平成27年11月1日（日）津田沼校舎37号館8階で第8回風力発電コンペWINCOM2015が開催されました。

全ての部門 合計29チームが参加され日本大学生産工学部校友会賞に日本大学生産工学部機械工学科 阿部翔一チーム、日本風力エネルギー学会賞に山形県立村山産業高等学校奥山チーム、最優秀賞に栃木県足利工業大学付属高等学校 岩井田正太郎チームが選ばれました。

生産工学部校友会は風力発電コンペを応援します。



平成27年度 第56回全日本理工科学生柔道優勝大会 日本大学生産工学部柔道部 優勝



平成27年6月28日（日）講道館にて行われました第56回全日本理工科学生柔道優勝大会において、日本大学生産工学部柔道部は見事優勝を果たしました。また今年の優勝で、通算優勝回数最多の11回となりました。今後とも応援の程宜しくお願い致します。

師範 大澤正美 顧問 村田康一 監督 大澤利之
(出場選手)

4年生 澤田昌太(数情)
3年生 中尾友紀(建築)、古山俊輔(数情)
今井亮輔(土木)
2年生 本間和真(数情)、福井一貴(土木)
田村翔太(土木)

(優秀選手賞)
3年生 古山俊輔、2年生 本間和真
(通算優勝回数)

11回 日本大学生産工学部
10回 芝浦工業大学
7回 日本大学理工学部、日本大学工学部

1回戦 本学部 3-1 国士舘大学理工学部
2回戦 本学部 ②-2 東海大学工学部
3回戦 本学部 4-1 日本大学工学部
準決勝 本学部 4-1 東海大学海洋学部
決勝 本学部 2-2 東京理科大学

※代表戦、3年生古山の勝ち

生産工学部校友会は生産工学部柔道部を応援します。

OB紹介

千葉工業大学工学部教育センター
准教授

南澤 慶優覧 (旧姓 田中 生産工学研究科 昭和61年卒業)



生産工学部工業化学科・専攻を修了後、日本大学短期大学部、生産工学部副手として勤務させていただき、結婚を機に東京医薬専門学校生命工学技術科に勤務し、2011年より現職の千葉工業大学にお

世話になっております。取り立てて何のとりえも無い私が、OBとしてご紹介いただくのは恐縮するばかりです。ご笑納いただければ幸いです。

事象の背景がつかめないと前に進めない性格で、時間の軸がどうしても逸脱しまいがちな私に、在学時代ご指導いただいた藤原・平松研究室の両先生は、本当に自由に好きなだけのびのびと勉強をさせてくださり、藤原先生の奥様、平松先生のお母様にはいつも笑顔で接して戴きました。大学のクラブや研究室の諸先輩方・同級生にも大変恵まれていたと思います。生産工学部ならではの暖かいおらかな気風のもとで6年間を過ごし、私の研究者人生の堅牢な土台となる「アカデミックフリースタイル」の精神が育まれました。

2004年頃から起きた世界的な社会経済に関するイノベーションの見直しは、技術力、社会問題・市場価値の開発までを網羅するイノベーションの創造が出来る人材の基礎教育を要求し、一過性のものではなくますますその需要はすそ野を広げている¹⁾、²⁾。といわれ、大学教育にも不可欠な意識となっております。この人材教育は、学生の就職力に直結し、ひいては大学の評価にも大きく影響すると思います。生産工学部は、いち早く生産実習を取り入れたアカデミックキャピタリズムとボトムアップがバランスよくとられたイノベーション教育で我々を育ててくださいました。今改めて感謝しております。

私は、専門学校でのご縁で東京大学工学部 渡辺正教授のもとで学位をいただける機会に恵まれ、自分にしか出来ない only oneの研究テーマを見つけなさいとご指導戴き、Traditional plant に着目し何度か南インドに研究訪問をいたしました。そこでご縁をいただいたのがスワミナタン教授です。インドでは、フリースタイルという言葉に重要な意味があります。私が学生時代の思い出を語ると、素晴らしい経験だと褒めてくださいました。スワミナタン財団も、豊かな感性を持った自由な子供たちを育成したいと活動をされており、日大時代の体験に耳を傾けてくださいました。私は、日大の卒業生の方々に様々な場所で出会い、声をかけていただきます。一人見知らぬ国で仕事をしているときに、卒業生にお目にかかる喜びはひとしおです。日大のOBでよかったと心から思います。もうひとつ、生産工学部に入学して幸せなことがあります。主人との出会いです。今日まで私が自由に活動させていただいたのは、一重に同級生の主人の支えあつてのことです。これもまた「男女共同参画」の走りです。

生産工学部は、トレンドの発信地かもしれません。本当にお世話になっております。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。



1) The OECD Innovation Strategy: Getting a Head Start on Tomorrow, June 2010.
2) Innovation 25, 内閣府

OB紹介

東京情報大学 総合情報学部長 三宅修平 (数理工学科 昭和56年卒業)



「櫻縁に恵まれて」

1977年4月、故郷岡山県倉敷市から上京し、期待に胸を膨らませ、生産工学部数理工学科に入学したことが、つい数年前のような気が致します。

入学直後、数理工学科の登坂宣好先生、

教養化学教室の高原光子先生と邂逅し、公私ともにご指導いただきました。登坂先生のご指導の下で、計算力学を研究テーマとした卒業論文、修士論文、博士論文に取り組みました。当時、登坂先生の周りには、角田和彦先輩（現数理工情報工学科教授）他、先生のご指導に啓発された研究熱心な先輩方が多数居られ、私も大いに鼓舞され、また様々な面でお世話になりながら、9年間の学生生活を終えました。

博士課程修了後は無給研究生となり、漠然とした将来への不安の中で研究を続けるしかなく、今から考えても非常に辛い日々でした。その様な中、石井先生（現校友会相談役、現日本大学常務理事）には、専門学校で非常勤講師をご紹介いただき、時給も良かったことから大変有り難かった記憶があります。

当時、社会の情報化が進む予感の中で、文系大学にも情報教育が求められ、1987年4月関東学園大学に専任講師として職を得ました。関東学園大学は文系で教員の専門分野も経済学他、多岐に渡っていました。教員の出身大学も様々で、今振り返りますと、この大学での先生方との交流は、人間、社会に対する視野を大きく広げてくれました。

着任後9年が経過したころ、数理工学科・故長井浩先生から、東京情報大学の兼任講師をご紹介いただき、2001年4月に同大学に転職しました。東京情報大学は、1988年に学校法人東京農業大学が設置した総合情報学部1学部の大学です。東京農業大学は「稲のことは稲に訊け、農業のことは農民に訊け」という言葉に象徴されるように、観念論を排して実際から学ぶ姿勢を重視した「実学主義」を掲げています。この教育理念は、生産実習などを重視した生産工学部の教育と通じるところがあり、何かの縁を感じざるを得ません。この度、思いもよらず、本年4月1日付けで総合情報学部長という大役を仰せつかりました。本学は平成29年に新学部の設置を構想しており、総合情報学部の

改革、新学部とのシナジー効果の醸成など、大きな転換期の中、多くの課題解決を迫られています。この課題の大きさと重責に身の引き締まる思いです。

このような中、去る5月17日生産工学部校友会の皆様、私の総合情報学部長就任を祝う会（於国際文化会館）を催していただきました。当日はお忙しい中、生産工学部長の落合実先生、生産工学部校友会長の高野和雄先輩はじめ、多数の方々に温かいお言葉と共に祝いいただき、大変感激し目頭が熱くなるのを抑えることができませんでした。



於国際文化会館

私は日本大学生産工学部に入学してから学部、大学院、研究生と10年間お世話になり、その後も校友会活動を通して、皆様にご指導をいただいております。今日までの私の人生を振り返りますと、様々な場面で日大の先生、日大の先輩、日大の同級生、日大の後輩の皆様が暖かく育てて頂き、また支えていただきました。今日の私があるのも、櫻縁の中のご指導の賜物と、感謝の念に堪えません。ご存知の通り、教育界は少子化の中、大変厳しい時代を迎えておりますが、私が日大で学んだこと、諸先輩からご教示いただいたことを活かし、生産工学部OBの名に恥じないよう職務に専念する決意です。

末筆ながら、母校の発展を祈念するとともに、今後も校友会活動を通じて、微力ながら母校に貢献して参る所存です。

OB紹介

広島県立広島工業高等学校
土木科主任

本屋敷 繁 寿（土木工学科 昭和60年卒業）



私は、昭和60年3月日本大学生産工学部土木工学科（構造工学研究室）を卒業後、同年4月日本大学大学院生産工学研究科博士前期課程土木工学専攻に入学、昭和62年3月同大学院を修了しました。その後、昭和63年4月

広島県教育員会に採用されました。教職に就いて27年が経過しました。勤務校は、本校で3校目であり、工業（土木）科に携わってきました。

本校は、広島市の中心部に位置し、5学科（機械科、電気科、建築科、土木科、化学工学科）を設置し、生徒数960名、創立118年の歴史と伝統を持つ、西日本屈指の工業高等学校です。本校から進学して日本大学の卒業生も多数いらっしゃいます。

私は、本校の土木測量部の顧問として、全国工業高等学校長協会主催の高校生ものづくりコンテスト測量部門の優勝をめざして、選手の指導をしています。本校は、中国地区大会に優勝し全国大会に出場します。全国大会出場は、今回で3回目の出場となりますが、過去に入賞もしていません。本年度は、11月14日（土）～15日（日）の2日間の日程で、鹿児島県立鹿児島工業高等学校を会場として開催されます。その競技内容は、「5角形の閉合トラバース測量とその計算」で、その測量精度および時間を競い合い、選手人数1チーム3名、外業

競技と内業競技に分けて実施されます。まず、外業は10チームを2グループに分けて、5チームで行なわれます。トラバースの方位角測定は、A点に器械を据え付け、あらかじめ打たれたN点を磁北とみなし、測線ABまでの右回りの角とする。距離測定は、光波により測定する。ただし、測定回数は各測線とも4回とする。角観測は、単測法で正反対回とし、トラバースの内角を測定する。



全国大会内業競技のようす

観測は、点A → B → C → D → E と反時計回りの順番に測定する。この測定の順番を変えてはならない。ただし、再測の場合はすべての点の測定が終わってから、必要とする点で測定してよい。終了は、すべての観測が終わり、スタート位置にチーム全員3名が使用器械器具を持って集合し、競技委員に野帳を提出し、作業が終わったことを告げ、チーム全員3名が挙手した時点とする。また、内業は10チームが一斉スタートとする。内業はトラバース計算書1・2を完成させる。トラバース計算の調整量はコンパス法とし、合緯距、合経距の計算は点Aを原点として行う。内業の終了は、測量成果（野帳、トラバース計算書1・2）をまとめ、3名が挙手した時点とし、その時のタイムを競技委員が記録する。本年度は、日本大学生産工学部土木工学科を卒業して、30年の節目の年になり「母校を訪ねる会」の案内をいただき感謝をいたし、参加を検討しています。今後、日本大学生産工学部校友会としっかりと連携を取り合い、本校の優秀な生徒を推薦したいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。



全国大会外業競技のようす

機械工学科

【学生数】学部788名 大学院（前期）65名 大学院（後期）6名

【人事】学科主任として久保田正広教授、専攻主任として松島均教授が学科の運営に携わっております。野村浩司教授が研究所次長として学部の運営に携わっております。平林明子先生が助教から専任講師へ昇格されました。新任教員として日東紡績株式会社より平山紀夫教授が着任されました。平山先生は本学大学院博士後期課程を修了され、長年にわたり高分子系複合材料の作製とその評価に携わって来られたこの分野のエキスパートです。



平山紀夫教授



平林明子専任講師

【トピックス】学生を活性化させるため、機械工学科内に「女性エンジニアの会」（これまでは女子会として活動）および「留学生の会」を発足させました。学生間および学生・教員間のコミュニケーションを高める役割を担い、学部行事への参画を積極的に推進してまいります。機械工学科では教員の世代交代が急速に進んでおります。校友の皆様方からの温かいご支援を賜りながら機械工学科の更なる発展に向けて教職員一丸となって邁進してまいりますので、今後ともご支援のほどどうぞ宜しくお願いいたします。

電気電子工学科

【学生数】学部705名 大学院（前期）24名 大学院（後期）3名

【人事】高専機構 国立福井高専より石栗慎一氏が准教授として着任されました。高温超伝導および新型超伝導を利用したエネルギーに関する基礎研究をされています。日本電信電話株式会社の未来ねっと研究所より関 智弘氏が准教授として着任されました。超高速無線通信システムの研究をされています。本年5月に山崎憲教授が定年退職されました。長年にわたり本学科の発展に貢献頂き大変感謝しております。引き続きご指導を賜りますようお願い致します。



関 智弘准教授



石栗慎一准教授

【トピックス】本学科OBで非常勤講師の藤縄 雅先生（現 独立行政法人理化学研究所）が一般社団法人電気設備学会・星野賞を受賞されました。田中將義教授と大窪崇宏氏（院生）がAIAA学会衛星通信システム国際会議で最優秀論文賞を受賞されました。山崎憲先生と福田剛志氏（平成20年修士修了OB）がSir C.V. Raman Awardを受賞されました。皆さん受賞おめでとうございます。

土木工学科

【学生数】学部824名 大学院（前期）29名 大学院（後期）3名

【人事】長年に渡り、本学科の発展に貢献いただいた、工藤勝輝教授が平成26年3月、柳内睦人教授が平成27年4月をもって退任されました。先生方は現在も非常勤講師としてご助力をお願いしております。平成26年10月に（財）リモート・センシング技術センター研究部から杉村俊郎教授、平成27年4月に国土交通省から森田弘昭教授ならびに清水建設技術センターから西尾伸也教授をお迎えしております。

水口和彦助教が准教授、青山定敬助教、朝香智仁助教、加納陽輔助教がそれぞれ専任講師に昇格しました。

【トピックス】工藤勝輝教授の最終講義が平成27年2月24日に市ヶ谷の桜門会館並びに柳内睦人教授の最終講義が平成27年5月9日に生産工学部において開催されました。

長年にわたり、学生との交流を大事にされた両先生にふさわしく、大変多くの卒業生ならびに教職員、関係者が参加する最終講義となりました。



工藤勝輝先生最終講義



柳内睦人先生最終講義

建築工学科

【学生数】学部839名 大学院（前期）40名 大学院（後期）3名

【人事】学科主任に小松博教授、専攻主任に師橋憲貴教授が選出されました。廣田直行教授が学生担当に任命されました。永年にわたり教育・研究並びに学部の運営に尽力されました浅野平八教授が2015年3月に定年退職されました。新任教員として布野修司特任教授、山岸輝樹助教、小島陽子助教が4月に着任されました。

【トピックス】居住空間デザインコース卒業生（4期生）の鍋島千恵さん（株）TNA代表取締役が設計された「上州富岡駅」が2015年日本建築学会賞（作品）を受賞されました。それを記念して、7月20日に特別講義「世界遺産への玄関口「上州富岡駅」の設計について」が39号館スプリングホールにて行われました。上州富岡駅のコンペ開催が震災直後だったことから建築することの意味、建築のあり方、駅の改札の内と外あり方や街とのつながり方などの話や、富岡製糸場の木骨レンガ造から鉄骨レンガ造を採用するに至ったこと、構造強度や凍害を考慮して生み出したレンガの色合い・レンガの積み方のことなど、様々な状況や素材・構造から生み出されるデザインの話は、学生にはとても有意義な内容でした。



上州富岡駅の写真による鍋島千恵氏講演会ポスター



鍋島さんの講演の様子

応用分子化学科

【学生数】学部704名 大学院（前期）51名 大学院（後期）2名

【人事】平成27年度は日秋俊彦教授が学科主任に選出され、専攻主任に山田和典先生が任命されました。佐藤敏幸助教及び山根庸平助教が専任講師に昇格されました。和泉剛教授ならびに平松秀夫准教授は平成27年3月に定年退職されました。これにより平成27年度の教員構成は教授9名、研究所教授1名、准教授6名、専任講師4名、助手1名で研究室数は13となっています。なお、学科に関する最新情報はホームページをご覧ください。 <http://www.ic.cit.nihon-u.ac.jp/>

【トピックス】○応用分子化学専攻博士後期課程3年の諸崎友人君が、日本学術振興会特別研究員DC-2に採用されました。○原口和敏教授がサイエンス講座「ナノコンポジットゲルの合成と評価」を開催し、6/20に埼玉県立川越工業高校、7/11に千葉県立佐倉高校の学生が受講しました。○野呂知加子教授は、日本大学海外派遣研究員（短期B）として平成27年7月より3か月間英国ボーツマス大学に滞在され再生医工学の研究に取り組みました。○9/2-3に開催された国際会議 The 8th Asia Pacific Symposium on Ion Analysisで、齊藤 和憲 専任講師がBest General Poster Awardを受賞しました。○9/9-11に開催された化学工学会第47回秋季大会において、大学院生の市川貴啓君と佐藤和範君が学生優秀講演賞を受賞しました。○10/29-30に開催された日本海水学会若手会海水・生活・化学連携シンポジウムにおいて4年生の土屋侑子さんが最優秀ポスター賞を受賞しました。



日本学術振興会特別研究員DC-2に採用された諸崎友人君と指導教員の藤井孝宜教授



海外派遣研究で出張された野呂知加子教授（英国ボーツマス）

マネジメント工学科

【学生数】学部743名 大学院（前期）16名 大学院（後期）4名

【トピックス】当学科の後輩諸君も頑張っており、3月には経営情報学会の関西支部学生研究論文発表会にて、学部生の吉松寛道君が最優秀賞を受賞しました。そして7月には日本防錆技術協会第35回防錆防食技術発表大会にて、大学院生の松尾俊宏君が若手技術者優秀発表賞を受賞しました。また3年前から、桜泉祭でマネジメント工学科の御神輿を担ぐようになり、校友会のマネジメント部会の先輩方から製作や修理代、お弁当等のご支援に支えられ成功裏に執り行う事ができ、学生達も大変喜んでおります。

そして近年恒例となっておりますが、7月上旬から下旬にかけて台湾の中國科技大学との交流プログラムを実施しております。昨年は7月14日から19日まで、18名の学生達が生産工学部に来て、マーケティングや生産システムなどの授業を受け、千葉県内の工場見学をしました。慣れない日本語での授業ですので、難しい講義がさらに難しかったようです。今年の4月からは、3名の学生が特別聴講生として当学科に1年間留学して、経営や管理技術を学んでおります。

さて本年度は、新入生の1年生を189名、そして大学院生として博士前期課程7名、後期課程2名を迎えて新学期をスタートしました。4月11日から12日には、学外オリエンテーションとして、筑波の研究施設等を見学しました。まだ大学生活が始まったばかりで、地方から親元を離れて、一人暮らしを始めた学生も多い時期です。新しい大学生活への期待と共に、まだ友達もいない不安な状況での、オリエンテーションでは同じ部屋になった学生同士で、友達になるには絶好の機会となります。1泊2日という短い期間でしたが、この時期に友達になった学生が、一生の友達になる事も多く、とても貴重で有意義な時間を過ごせました。



オリエンテーションの夕食



筑波の研究施設等見学

数理情報工学科

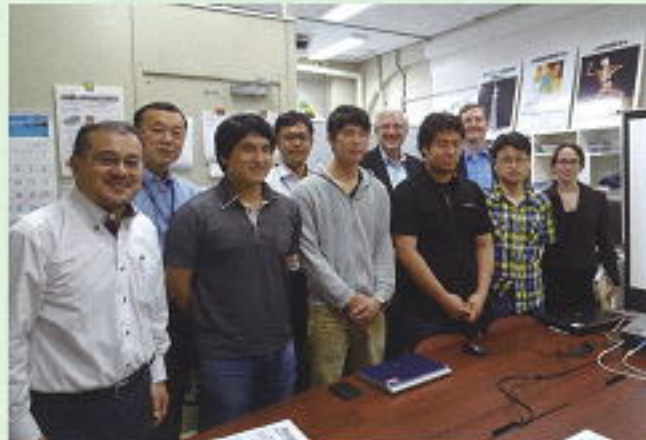
【学生数】学部631名 大学院（前期）38名 大学院（後期）3名

【トピックス】数理情報工学科では、卒業後高校等の数学教員となる学生がたくさんいます。彼らは4年生の春から夏にかけて、自分の母校で約1ヶ月間教育実習を行います。教育実習の最後には研究授業が行われ、そこには校長先生をはじめ多数の先生方が授業参観する他、大学の研究室の指導教官も授業参観をすることがあります。今年研究授業を参観した指導教官の一人からは、自分の学生の授業風景を見て、その翌週から講義で話すスピードを調整した、というコメントを聞きました。

数理情報工学科には、毎年海外の大学等から多数の方が来訪されます。今年は、米国のイリノイ大学、オランダのユトレヒト芸術大学に続いて、夏にはミシシッピ州立大学（MSU）から来られました。MSUからの来訪者はいくつかの研究室を訪問されたのですが、その中でも見座地研究室を訪問した際、大学院の学生が全員英語で研究内容をスラスラと紹介したのに、同行した数理情報工学科の先生はびっくりされていました。多くの学生は、自分は英語を話せないと謙遜するのですが、その局面に立ったら全員話せる、ということのようでした。社会のグローバル化が進むのと同じように、数理情報工学科でも着実にグローバル化が進んでいます。



千葉県内の公立高校で教育実習中の4年生



ミシシッピ州立大学からの来訪者と見座地研究室の学生達

環境安全工学科

【学生数】学部559名

【トピックス】学会表彰、資格取得が相次いだ1年でした。昨年度は秋濱教授が自動車技術会部門貢献賞、今村准教授が航空宇宙学会技術賞、4年生の長谷川高平君が野村総合研究所学生小論文コンテスト奨励賞を受賞しました。これに引き続き今年度は亀井助教が無機マテリアル学会講演優秀賞、今村准教授が日本燃焼学会奨励賞を受賞しました。資格ではエネルギー管理士科目合格3名、危険物取扱主任（甲種）1名、環境分析測定士7名の合格者を出すことができました。また研究面ではアベノミクス3本目の矢の一貫である内閣府の戦略イノベーション創造プログラムに、秋濱教授はPMモデリンググループのリーダー大学として、今村准教授はクラスター大学の一員として参画し、活動を始められました。これらの予算により40号館1階101実験室に最新のPIVシステムが導入され、稼働を開始しました。学生では3期生113名について大学院進学7名、公務員への就職7名、企業就職者96名が確定し、留学希望等の事情により就職を希望しない者3名とともに卒業式を迎えました。また新入生147名を新しく迎えております。教員では残念ながら長井浩准教授が平成26年10月に急逝されました。しかし4月には野中助教が新しく着任され、早速、放送大学の分担講師として講義は4月および7月に放映されるなど活躍されています。また保坂准教授は3月より1年間の海外派遣としてSheffield大学に出張されており、新しい研究成果を携えての帰国が待たれます。以上のとおり、悲しい出来事もありましたが、教員、学生ともに元気で頑張っております。



学会表彰



資格取得者



PIV計測システム

創生デザイン学科

【学生数】学部542名

【人事】○平成27年度学科主任に三井和男教授が再任されました。○平成27年6月、堀江良典教授が退任されました。昭和44年に日本大学生産工学部に着任されて以来、46年間の長きにわたり、学生の教育・研究の指導に携わってこられました。国際人間工学会連合理事、日本人間工学会理事・関東支部長・国際協力委員長・総務担当、日本経営工学会東関東支部長、産業保健人間工学会理事、プラントヒューマン・ファクター学会理事などを務められました。習志野市環境審議委員や国土



堀江先生講義



学長と共に（中川先生）

交通省、経済産業省の各種委員なども務められ、人間工学の分野で国際的にも多大な貢献をされています。○平成27年4月、遠田敦助教が就任されました。研究分野は、「住環境および人間行動に対するカジュアルモニタリングインフラの開発」、「マシンラーニングを用いた人間行動および住環境特性の抽出」「スマートフォンなどを用いた個別配信型避難安全システムの研究開発」などで、今後の活躍が期待されます。○中川一人助教は、平成26年度海外派遣研究員（中期）としてフランス共和国・strate ecol de designに派遣されました。（平成27年3月～平成27年7月。）

教養基礎科学系

【トピックス】本年度入学の学生からGlo-BEプログラムが始まりました。生産工学部だけのオリジナルプログラムで、2年間で世界中どこでもたくましく活躍できる力をもつ技術者を育てるプログラムです。1年次の学生約50名が積極的にグローバルな考え方、グローバルに必要な語学力を身に付けるために勉学に励んでおります。1年次の学生が参加するイベントとして、4月に新入生歓迎パーティーを体育館で開催し、5月にはスポーツ大会も行われました。11月には桜祭も開催され多くの学生が初めての大学の学園祭に参加します。また教養・基礎科学系はオープンキャンパスなどにも積極的に参加しており写真はその時の物理学の実験や液体窒素を使った実験しているときのものです。また、総合文化系で主にスポーツを担当している新井健一先生がJOC（日本オリンピック協議会）から、重量挙げの選手育成を評価され奨励賞を受賞いたしました。3月に山田信夫准教授がご定年となられまして、4月に森健太郎助手と山崎絢史助手が新たに着任されました。



オープンキャンパスでの実験の様子



オープンキャンパスでの実験の様子



自主創造
日本大学

第92回

箱根駅伝

走れ日大!
11万人の
仲間と共に

左: 藤野 誠二
(経済学部・経済学系)

右: 藤野 誠二
(文理学部・文学系)



祝! 第92回東京箱根間往復大学駅伝競走 86回目出場!

日本大学校友会

スポーツ振興特別委員会

<http://www.nichidai-sports.jp>

【日本大学保健体育審議会 所属競技部全34部】

陸上競技部	剣道部	柔道部	空手道部	スケート部	フェンシング部
バスケットボール部	バレーボール部	レスリング部	サッカー部	ヨット部	女子サッカー部
7人制ラグビー部	ラグビー部	ボクシング部	スキー部		
テニス部					

生産工学部校友会は箱根駅伝を応援します

寄付のお願い 口座番号 00190-7-585685 日本大学校友会スポーツ振興特別委員会

日本大学生産工学部校友会誌「桜生工」

発行: 日本大学生産工学部校友会

住所: 千葉県習志野市泉町1-2-1

TEL: 047-476-1140

FAX: 047-476-3510

HOMEPAGE: <http://www.ne.jp/asahi/nuit/koyukai/>

E-MAIL: nuitkoyukai@nippon.email.ne.jp

印刷: 株式会社 東工

住所: 東京都北区赤羽北2-2-12

TEL: 03-5963-5702

FAX: 03-5963-5704

編集: 日本大学生産工学部

校友会広報委員会